

釜ヶ崎解放

95
3.1

〒557 大阪市西成区萩之茶屋2丁目5-25
釜ヶ崎解放会館内
釜ヶ崎日雇労働組合
電話 06-632-4273

震災特需の日雇労働総動員と闘おう！ 春期斗争一弾集会 (3日、3月6日半～) 西成市民館

釜ヶ崎の仲間達、南東七震災(阪大、約12万人の震災死者)に次ぐ震災被災者を飲み込んだ阪神大震災を契機に、釜ヶ崎の寄せ場も、現任、その様相が一変している。

「今必要なのは10万人単位の単純労働者」(2/21 毎日)と言われる。その震災復旧工事への日雇労働動員の最大の動員場としての役割を果たしているのが、釜ヶ崎の寄せ場だ。

パナール崩壊後の90年代半ばが構造化し、南西新空港一期工事のロケット(一兆五千億円)が終わり、建設不況の、ピン底にあえいでいたゼネコン、建設地占は、30兆円産業、と言われる震災復旧、復興特需を、資本増殖の最大のチャンスへと利用せんとしている。震災地以外の新規工事は一時投げ捨てても、全てのゼネコンが、一斉に、震災復旧工事へむき直りついでるのはその為だ。

南西新空港のロケットの10数倍の復興のロケット、震災特需を握り占め、巨額の甘い汁を被災地から吸いあげるのだ。約5千5百名の被災死者の犠牲を強いられた

被災地では、中小、零細企業、工場、業の転場を中心に、数10万人に達する震災生業が、現任、オニの震災、として、支配者どもによって強いられている。

仲間達、被災地を食い物とする、建設不況からの延命を築くゼネコン、建設地占は、手配師、人走出し、飯場を最大の限に利用しながら、復旧工事への日雇労働総動員を進めつつ、復旧工事現場で、転落死亡事故など、復興特需を激発させ、その犠牲を我々日雇に押しつけている。更に、釜ヶ崎の寄せ場で、震災復興への日雇労働総動員が煮つまる中、これにかこつけて、高令者の日雇労働者業、「特別清掃」を、府労部は、2月末をもって一方的に打ち切りを強行したぞ。

震災復旧への日雇労働総動員を契機に、釜ヶ崎の労務構造、労務構造の新たな再編が進む。この春期、春期斗争の行陣に着手しよう。3日、西成市民館、春期斗争第一弾集會に結集しよう！

集會に、労働現場の情報を持ち寄ろう！

「復興労災」多発、81件

阪神大震災

作業の日程に無理

転落など 労働省が監督強化

阪神大震災のビル解体作業や復旧工事などで、「復興労災」ともいえる事故が兵庫県だけで計八十一件発生し、四人が死んでいると、二十日、兵庫県労働基準局（神戸市中央区）などの調べでわかった。うち二件については遺族が労災申請している。労働省では危険な場所での作業が多く、無理な作業の日程が事故を助長しているとして、同労基局を通じて各労基署に現場パトロールの強化を指示。各作業所には安全管理を徹底するよう指導した。

最初の死亡事故は一月二十六日、同市兵庫区の道徳に勤める会社員五人が、船所にある天井の上で破損した天板を踏み、三階の天井に落ちて死亡した。同労基局によると、このほか、▽阪急三宮駅でとび職三人が解体工事の準備中に、屋根の明かり採り用のガラスを踏み抜き、約十メートルの高さから落下して死亡（二月六日）▽かわら職人三人が宮原市の民家で、かわるを取り換えている足元を滑らせ転落死（同日）▽なす計四件の死亡事故が起きている。負傷事故では、三十年近いキャリアを持つ電気作業員もが一月十六日、ビルの地下二階で設備を点検中、地盤で露出した高圧線（二万五千ボルト）に近づき半身に大やけどを負い、休業見込みが六月。JR神戸駅で煙突を解体していた作業員三人の足に破砕機が当たって同三か月一などが報告されている。

けがの程度について、各々異なることから、これに伴い警戒。今月初めから労基署が労災事故も多発することを、職員を動員して工事現場の

このほか、▽阪急三宮駅でとび職三人が解体工事の準備中に、屋根の明かり採り用のガラスを踏み抜き、約十メートルの高さから落下して死亡（二月六日）▽かわら職人三人が宮原市の民家で、かわるを取り換えている足元を滑らせ転落死（同日）▽なす計四件の死亡事故が起きている。負傷事故では、三十年近いキャリアを持つ電気作業員もが一月十六日、ビルの地下二階で設備を点検中、地盤で露出した高圧線（二万五千ボルト）に近づき半身に大やけどを負い、休業見込みが六月。JR神戸駅で煙突を解体していた作業員三人の足に破砕機が当たって同三か月一などが報告されている。

同労基局によると、こうした事故は復旧工事が本格化した先月末から急増。壊れかけた建物の中など危険な作業現場のうえ、作業の日程や計画に無理があり、破損がひどい労働者までが助長されていることが事故の誘因になっていると分析している。

労働省では、今後とも解体、建設など各種工事が増

高濃度のアスベスト検出

神戸・マンション解体現場

阪神大震災で倒壊した建物の解体の際、肺がんの原因となるアスベスト（石綿）が大気中に飛散している問題で、民間の環境調査機関「環境監視研究所」（大阪）が二十一日までに、神戸市内のマンション解体現場から規制基準の十六〜二十五倍もの高濃度のアスベストを検出した。環境庁も、今日六日から同様の調査を始めたが、調査後、アスベスト汚染の実態が明らかになったのは初めて。

規制基準の16〜25倍に

同研究所によると、調査などで分析した結果、アスベストの中でも最も毒性が高いと言われる「クロシドタイプ」が、それぞれ大気一立方メートルあたり二百五十〜四百六十本と二百五十本検出された。

大気汚染防止法では、アスベストの規制基準は、取り扱う工事などの敷地境界で大気一立方メートル以下。同研究所の現地調査結果は「一層外では考えられない

い高濃度。飛散予防用の水をかけずに解体作業が行われているためだろう。通行人や解体業者への影響は大きく、防じんマスクの着用が必要」と話している。環境庁大気規制課は「二

大阪の研究所調べ

死者	不明
5401	2
181	1
計	5420
兵大京	2
庫阪都	
計	5420

〔21日午前0時45分現在〕
〔近畿管区警察庁調べ〕

パトロールを実施。専門家を主な作業現場に派遣して現地指導を行っている。また、各作業所に作業マニュアルや安全管理の徹底を求めた文書を配布。安全指導がないかチェックするなどの、防止策を検討したい。